

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 職員のワーク・ライフ・バランスを大切にする。 2 利用者のワーク・ライフ・バランスを大切にする。 3 子どもの人権・自立心を尊重した保育をする。 4 児童の健全な発育を支援するため、保護者と十分な連携を図り「共育て」をする。 5 チームワークを大切にして「お互い様」の助け合いができる職場づくりをする。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>（1）職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より良い保育を行うには、チームワークと向上心が欠かせないと思う。「自身が利用したくなる保育園」づくりを目指している。 ・利用者の立場で、信頼できる保育内容で、子育てを支えてくれ、なんでも相談できて、預けて安心な保育園づくりである。 ・採用時に明示しているのは、以下の3項目を掲げている。 <ol style="list-style-type: none"> ①保育に熱意のある方。特に「寄り添い・見守る保育」を志す方。 ②チーム保育を心がける方。 ③ワーク・ライフ・バランスに感心のある方。 <p>（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、社会人として利用者から信頼されることである。その上で「保育士」「調理士」「事務」などその職務をより高い品質で提供できるように、努力できる人である。 ・具体的には、目標管理で振り返りを行うほか、今年度から職務評価加算制度を導入し、仕事を頑張った人が給与に反映される制度を導入する予定である。 ・「てのひら」の職員であることに、誇りをもって働き続けてもらいたい。

調査対象

調査日時点の利用者の全世帯を対象とした。子どもの総数は19人、世帯数は17世帯である。有効回答数は14世帯で回答者の割合は82.4%であった。調査記入者は母12人、無回答2人であった。

調査方法

アンケート方式により実施した。調査票は園を通して配布していただき、回収は評価機関が用意した返信用封筒を直接評価機関に郵送していただいた。調査項目は共通評価項目を使用した。

利用者総数

19

利用者家族総数(世帯)

17

共通評価項目による調査対象者数

17

共通評価項目による調査の有効回答者数

14

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

82.4

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」11人(78.6%)、「満足」3人(21.4%)で、全員が満足と答えている。大変高い評価結果を得ている。総合的な感想では、「子どもは休みの日でも保育園に行きたがるくらい大好きです」、「子どもが自由にのびのび過ごせる。親も安心して預けられる素敵な保育園だと思います」、「園庭がなくても雨の日以外は毎日お散歩や、近隣の公園でたっぷり外遊びをさせていただき、子どもはたくさんの刺激を受けて成長しています」、「毎月の避難訓練では、様々な災害を想定しており、きちんとした対策をされているので安心して預けることができます」など感謝、評価する意見が数多く寄せられている。項目別では、質問項目17項目中、9項目で全員が「はい」と答え、3項目で9割以上の利用者が「はい」と答えている。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見はなかった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見はなかった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見では「園でいろいろな食材が出されて、好き嫌いがほとんどないです」との声が寄せられている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見はなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	12	0	0	2
「はい」85. 7%、「無回答」14. 3%で、「どちらともいえない」、「いいえ」はいない。自由意見では「他の園に通わせている子どもの行事などで、遅くなくても対応していただいて助かっていますとの声」が寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	1	0	0
「はい」92. 9%、「どちらともいえない」7. 1%で、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見はなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	12	1	0	1
「はい」85. 7%、「どちらともいえない」7. 1%、「無回答」7. 1%で、「いいえ」はいない。自由意見では「皆さんとても話しやすいいろいろな話を聞いてくれます」、「子どものこと、家のこと、仕事の相談などに乗っていただけてとてもうれしかったです」などの声」が寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見では「いつもとてもきれいです。匂いなどありません」との声が寄せられている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	13	1	0	0
「はい」92. 9%、「どちらともいえない」7. 1%で、「いいえ」はいない。自由意見では「迎えに行くまで職員が一人付き添っていただきました」との声が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見はなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	10	0	0	4
「はい」71. 4%、「無回答」28. 6%で、「どちらともいえない」、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見では「子どもは職員が大好きです」との声が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	13	0	0	1
「はい」92. 9%、「無回答」7. 1%で、「どちらともいえない」、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	14	0	0	0
全員が「はい」と答えている。自由意見はなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	13	0	0	1
「はい」92. 9%、「無回答」7. 1%で、「どちらともいえない」、「いいえ」はいない。自由意見はなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	8	1	2	3
「はい」57. 1%、「どちらともいえない」7. 1%、「いいえ」14. 3%、「無回答」21. 4%である。自由意見はなかった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく ○ 非該当
	カテゴリー1の講評	
	理念・方針等について、保護者や職員の理解が深まるようにしている 園は、「ワーク・ライフ・バランス」「男女共同参画」「児童福祉」に対する思いを基本に、2012年4月に開設した。保護者には、入園時の両親面接で入園のしおりである「保育の案内(兼・重要事項説明書)」をもとに、法人の運営理念を説明して契約している。また、ホームページでも掲載している。職員に対しては、採用した職員の研修、毎年度初めの研修で運営理念を伝えている。就業規則の冒頭にも運営理念・保育方針を掲載しており、保育方針(子どもに寄り添い、親と「共育て」をする)も常に念頭において、保育計画の作成・周知をしている。	
	経営層は理念・方針の実現に向け、取り組むべき方向性を提示し、園をリードしている 園は、運営主体がワーク・ライフ・バランス ラボであり、保育事業を通して「男女共同参画」社会の実現を目指している。理事長は、毎年2月の職員会議時に、経営状況・課題の説明とともに、自らの役割と職員の役割を説明している。また、毎月給与明細を各職員に渡す時が、理事長との面談の時にもなっており、各人の課題の検討の場になっている。さらに2020年度4月からは、0～5歳までの認証保育所の開設が決まっており、理事長は、法人の理念・方針の実現に向け、職員採用・研修、新園の整備等にリーダーシップを発揮している。	
	重用案件の検討や決定の手順が決まっており、内容・経緯について職員等に説明している 重要な案件については、先ず理事長に報告し理事会案件かどうかの判断を仰ぎ、次に理事長・園長・主任・事務からなるリーダー会で検討し、最後に理事会に諮るという手順で、検討・決定をしている。一般職員に対しては、毎月1回の職員会議において重要な案件の内容とその決定の経緯について説明をしている。また保護者に対しては、契約内容の変更となる案件については、再度説明をし、再契約を行うようにしている。	

カテゴリー2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>利用者や職員の意向、地域の福祉ニーズ等を把握し、課題を抽出している</p> <p>園では、3年前より毎年保護者アンケートを実施しており、アンケートの内容や園の対応も、園のブログにより保護者に伝えている。職員からは、月1回の職員会や理事長面談で運営などの意見を聞いている。地域のニーズについては、区や近隣の保育園等、事業者連絡会、区の「子育て支援専門部会」委員としての情報など、様々な所から情報を得ている。また理事長が法人の経理を担当しており、経営状況を把握し職員にも伝えている。それらの情報を基に、職員の就業の継続や保護者ニーズへの対応等、法人の課題を抽出している。</p> <p>理念・方針の実現に向け中長期計画を作成し、それを踏まえて単年度計画を策定している</p> <p>法人では、①就学前まで預かれる保育施設の整備、②保育の質確保の努力継続、③職員のワーク・ライフ・バランスの推進、を柱とした「中期的経営計画」(2019年4月改定)を策定している。中長期計画に基づいて、保育の質向上のため研修参加の促進、保護者の更なる信頼を得るため第三者評価の受審、ワーク・ライフ・バランスの普及・啓発、都認証保育園「てのひらこども園」の2020年4月開所に向けての準備、などを重点項目とした事業計画を策定している。今年度予算にも、こども園開設のための「施設整備補修積立金」を計上している。</p> <p>理念・方針の実現に向け 体制・職員の役割、活動内容を明示し、見直しをしている</p> <p>計画の着実な実行のため、施設長以下の職責と職務の内容を定めた「職務分担表」を策定している。さらに職員会議、リーダー会議、保育指導計画検討会議、食物アレルギー対策会議等で事業計画の実行と検討・見直しをしている。計画全体の見直しについては、半期に一度の理事会で行っている。保育の指導計画については、月一回の保育指導検討会議と年間の振り返りの会議で見直しをしている。さらに保護者支援・共育の推進に向け、その説明が出来る職員育成のために、業務評価制度を導入し、職員の自己評価を行い、給与に反映している。</p>		

3 カテゴリー3		
経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ3の講評

守るべき法・規範・倫理を周知し、遵守されるように取り組んでいる

園では新入職員の研修時に、運営方針や保育理念と共に、就業規則の服務規律14条の遵守事項40項目について説明している。また、年度初めの職員研修において、理事長から職員がチームとして支え合う「お互い様」の精神を伝え、「同僚の人権の配慮」を大切に思うことを伝えている。さらに、社会的スキルとして①社会人として、②チームワーク、③自己啓発等の項目を含む「業務評価表」を作成、自己申告と上司の評価を実施している。利用者調査でも、「職員の接遇・態度は適切か」の項目では、90%以上の保護者が「はい」と答えている。

虐待に対し、組織として防止対策に取り組んでいる

園では、虐待防止マニュアルを作成し①保育者の配慮として7項目、②虐待・ネグレクトの予防と早期発見では8項目を挙げ、年度初めの職員研修で、「同僚への人権の配慮」と「子どもの人権」について職員全体で確認している。特に園児に関しては、「名前を呼び捨てにしない」など具体的な配慮を皆で確認している。また虐待児童の発見時には、区や「子ども支援センター」に連絡、連携することも確認している。ただ、今後新しい職員の増加が考えられるので、マニュアルに加えてフローチャートがあれば更に良いと思われる。

透明性を高め、園の専門性を生かした地域貢献の取り組みをしている

園では、「小中高生保育ボランティア受入規定」を策定し、夏休みのボランティアとして6名、実習は中学生の職場体験、区の子育てホームサポーター・作業療法士の見学実習など、12名の参加があった。また地域貢献については、2歳児を中心に近隣の高齢者福祉施設を定期的に訪問し、一緒に童謡を歌ったりお遊戯を見せている。さらに地域の保育園・幼稚園・小学校との連携にも力を入れてきた。また地域の一員としての役割を果たすため、理事長が区の事業者連絡会・要保護児童対策協議会・パークリノベーション会議などに参加している。

カテゴリ4

4 リスクマネジメント

サブカテゴリ1(4-1)

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5 / 5
-----------------------	------------------	-------

評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
---	--	-----------

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
リスクに優先順位をつけ、リスクマネジメントに取り組んでいる 園では、一番のリスクは園児の負傷事故であるとの共通認識が出来ており、課題に対しケガ・発熱・感染症・食中毒・衛生管理などのマニュアルや感染症対策・事故発生時のためのガイドラインなどを作成している。毎年の全職員による園内研修では「保育の安全配慮」をテーマに、事故を想定したロールプレーで対応を確認している。さらに、不審者や災害への対応では、定期的に想定訓練を行っている。小さな事故でもヒヤリハットを記載、対応・予防に役立っている(8年間で病院にかかったケガは3件)。また経営リスクについても職員に伝えられている。 事業継続計画を策定し、職員間で確認している 園では、2017年度に「てのひら保育園BCP(事業継続計画)」を災害対策と同時に策定した。内容は、①目的-園児と職員の安全確保、保育の継続-早期再開、②緊急時対応-地震・火災の場合(保育中とそれ以外に分け、それぞれに行動、内容・注意点、担当を決めている)、③事業再開における手順、である。策定した事業継続計画は、職員会議で確認をしている。浸水に関しては、園の建物のオーナーとの話し合いにより二階のスペース(保育園と同じ面積)の一時使用が可能である。 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている 園では、情報の管理、利用、保管期限、廃棄については文書管理規定を策定し対応している。文書保存期間については一覧表(別表)を作成している。保育に必要な児童の情報は、保育室の鍵のかかる戸棚に保管し、その他の書類は事務室の施錠可能な戸棚に保管しているが、人事・財務情報が入っているパソコンはパスワードを設定しアクセス制限をかけており、園長と事務担当者だけがアクセス出来る。また個人情報については、個人情報保護規定・特定個人情報保護規定を策定、保育での個人情報取り扱いマニュアルに基づいて対応している。		
カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	3/3

評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

園の求める人材像を定め、それに基づきキャリアパスを周知し、人材育成をしている
 園の求める人材像は「目標管理・自己評価シート」の評価項目として、求める職責は「職員賃金表」の職務評価項目として表記しており、毎年1回職員自身で自己評価を行い、園の「キャリアパス概念図」に従って理事長面談を行い、個々の職員の将来の展望を確認している。それを基に「個別の研修計画」を作成し、園長・主任候補者には「管理者研修」、乳児保育の経験の少ない採用者には「乳児保育」の研修を勧めるなど、一人ひとりの保育・経営能力が高まるような取り組みをしている。現在、殆どの職員が「キャリアアップ研修」を受講している。

職員の定着に向け、安心して働ける職場作りに取り組んでいる
 園では中長期的経営計画の中で、経営方針の一つに「職員が働き続け易い職場作り」を挙げており、中退共の退職金制度加入、年3回の職員交流会への補助、区の勤労福祉センターUの利用(希望者)、予防接種の費用負担を始め、有休の半分は時間休の取得可とし、ストレスチェックの実施など、様々な取り組みをしている。さらに毎月の給与明細の手渡し時の理事長面接で、個々の職員の勤務状況の確認をし、出来るだけ改善できるように対応している。また職員休憩室を設け、昼食や職員団らんの場としている。

組織力の向上に向けて研修とチームワークの促進に取り組んでいる
 研修は、パート職員も含めて全員が園内研修と小規模保育所研修に参加している。他機関主催の研修にも希望者を参加させ、研修受講報告書を職員会議で全員で共有している。事業計画を策定する時は理事長が「たたき台」を示し、職員の意見を出してもらい、その後で確定している。また殆どの職員が「キャリアアップ研修」を受講し、保育ばかりでなく「園運営」についても考えてくれるようになってきている。法人として「ワーク・ライフ・バランス」を理念として掲げ、職員が「お互い様」の気持ちで助け合い、良いチームワークがある。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】地域の待機児減少の状況の下で、地域ニーズに更に応えるため、法人運営の健全な継続と職員の就業場所を今後も確保する為、認可保育園(後に都認証保育園に変更)の開設・運営を目標とした。【理由・背景】少子・高齢化社会の進行に伴い、現在の0歳～2歳までの小規模保育所2か所だけでは、少子化進行下での運営の継続が困難になる。利用希望者も5歳まで預けられる保育所を選択する傾向が強い。幼稚園在園の保護者の「教育は充実しているが時間が短く、仕事の継続が困難」と言う声もある。そのため、「3歳以上も預けられる教育の充実した保育施設」が必要。【取り組み】2018年5月こども園の建設敷地が見つかる。8月区の待機児解消プランが改定され、都の認証保育園整備の補助金が活用出来ることになり、舎人地域での認証保育園整備が軌道に乗った。2019年3月区から施設整備事業者として認定される。【取り組みの結果】就学前まで預かれる施設の整備が具現化した。2019年3月でのひら・第2でのひらの保護者に「こども園」の整備の説明会をした。【今後の方向性】開設に向け、職員の確保、保育方針・保育料金等の決定、入園募集、園児確保等を行っていく。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

理事長は、「特定非営利法人ワーク・ライフ・バランス ラボ」の運営理念の、「1職員のワーク・ライフ・バランスを大切に。2利用者のワーク・ライフ・バランスを大切に。3子どもの自立心を尊重した保育をする。」の実現のため、二つの小規模保育所を運営してきた。しかし、区の待機児対策として、園の近隣に2か所の認可保育園が整備されたこともあり、年度初めに0歳の空きが出るようになった。利用者も5歳まで預かってもらえる認可保育園を希望する傾向が強く、そのような状況の下で、保育事業の継続のため認可保育園の設立を目指した。認可の設立は区に認められなかったが、都の認証保育園には応募できた。都の待機児解消のための「認証保育園施設整備補助金」の充実もあり、現在運営中の2か所の小規模保育所の卒園児が入所できる定数を想定した保育施設の整備を2018年度の目標に掲げて準備に入った。また2020年に、幼児教育の無償化による都の認証保育園利用者助成制度が充実することも、事業の継続に追い風になっている。これからはより一層、保護者にとっても職員にとっても子どもにとっても、「ここに入って良かった」と思われる園になることが期待される。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【課題・目標】ICTシステム導入による、職員の事務負担軽減を図る。【理由・背景】連絡帳を書く時間が園児の午睡時間しかなく、休憩が取れない。連絡帳と個別日誌は、内容が重複し、二度手間になる事が多い。月案・週案の作成に時間がかかっていた。【取り組み】2018年4月、事務負担軽減を始めとするICTシステムを導入。手書きであった連絡帳・保育日誌・保育計画をタブレット入力にした。保護者への説明会を行い、連絡帳をアプリにした。5月より保育計画と日誌が一体となったオリジナルの書式を使用した。8月から連絡帳にタブレットで撮った写真を添付するようになった。9月から昼食の写真を撮り、アプリの連絡帳で保護者に伝えることが出来るようになった。【取り組みの結果】保育記録の在り方は、改定案が生かされている。9月に小規模保育所研修が「保育に役立つ保育記録の在り方」をテーマとして持たれ、てのひらのやり方が高く評価される。ただ、システム上の課題が見受けられた。【今後の方向性】2019年度は、災害時の「一斉メールシステム」、「アンケートシステム」など、ICTシステムをフル稼働し、保護者との「共育」を進めていく。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園は、0歳から2歳までの小規模保育所であり、保護者との連絡帳はもとより、保育計画も園児一人ひとり個別に作成しているため、以前からなかなか休憩時間が確保出来ない事と、記録の二度書きの改善が課題であった。2018年度にICTシステムの導入に取り組んだ結果、保育記録の在り方は改定案が生かされ目標が達成されたが、職員の休憩時間については課題が残っている。また、保育記録の書式が園のオリジナルであるため、電子情報としてサーバーに保管できず、改善が求められる。一方、連絡帳への写真の掲載などで保護者へ子どもの様子を伝えたことについては、年度末の保護者会でも高い評価を受けた。園では、2019年度は災害時の一斉メール、行事後のアンケートなど、ICTシステムのフル稼働による保護者との「共育」を進めていくとしており、今後の、システムの更なる活用が期待される。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー1の講評		
<p>園の情報はホームページ、ブログ、パンフレットなど様々な方法で提供している</p> <p>園ではホームページやてのひらブログなどインターネットを通じてまた、来園者にはパンフレットを渡して情報を提供している。ホームページでは情報提供メニューに園の紹介と特徴、保育方針、一年の行事、入園案内、一時保育等16項目ありアクセスするとそれぞれ詳細な内容の情報が得られる。パンフレットはカラフルなイラストが挿入されたA4判の3つ折りで表紙に保育方針、保育時間、保育料、アクセス地図、保育定数が記載され、内側には年内行事、一日の保育の流れとQ&A形式で保育園生活と保育内容が理解しやすいように記載されている。</p> <p>ホームページなどで園の取り組みや様子をわかりやすく伝えている</p> <p>園のホームページには園の概要と特徴、一年の行事、保育方針、おいしい給食、教育プログラム、パパ会、ママ会、一時保育、保護者のページなど基本的なメニューが16項目あり、その他に新着ニュース【2020年4月開園のてのひらこども園について】の項や施設のご案内、保育園からのお知らせ等がある。てのひら保育園ブログでは園生活の毎日や行事など、子どもの生き生きした姿を写真とコメントで伝えている。ワークライフバランスラボ法人紹介では理念や活動の説明、運営状況等を保育園の運営と共に分かりやすく伝えている。</p> <p>利用希望の問い合わせや見学には個別の状況に応じて対応している</p> <p>利用希望者等の問い合わせや相談、見学にはその都度個々に対応している。特に一時保育の利用希望の問い合わせには丁寧に対応し、在園児の休みがある時のみの実施であり週に2日位であることや登録制等の説明を行っている。ホームページにも一時保育実施日を記載して利用希望者の必要に対応している。施設見学の希望者に対しては希望の日時に園長、主任が対応し園の理念、方針や保育内容を丁寧に説明している。入園や一時保育の希望者からはホームページを見て、園の保育の内容や園の意図することが分かりやすいとの感想があった。</p>		

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
入園に際し基本的ルールや重要事項の説明を行い保護者に同意を得ている 基本的ルールや重要事項の説明は入園説明会で保育のご案内に基づいて行っている。サービス内容については入園説明会で説明の他、個別に両親面接を行い保護者の意向を聞き同意を得ている。保育のご案内には保育園運営方針として①父親の育児参加と母親の仕事の継続を支援する②児童の健全な発育を支援するため保護者と十分な連携を図る③必要な保育サービスの提供のため地域の保育関係事業と連携するを掲げている。保育のご案内には施設の概要や保育の特徴、保育計画、保育に必要なもの等33項目に亘り、園生活に必要な情報が記載されている。		
個別の状況を把握して子どもの不安やストレスが軽減するよう支援している 子ども個別の状況は入園時の両親面接の際に提供された園児状況票に記載の家庭状況や育児方針、保育園への要望などの内容を確認しながら様々な情報を記録し把握している。入園当初には不安なくスムーズな園生活が送れるよう慣れ保育期間を定めて子どもの状況に応じた支援を行っている。また、親子保育の体験を3月末に行って入園の不安の軽減を図っている。子ども一人ひとりに応じた配慮、スキップや家庭との密接な連携など、不安やストレスが軽減されるよう個別の関わりを大切に支援を行っている。		
サービス終了時の不安に配慮した支援を行っている 終了時に配慮した支援として卒園児には毎年8月～9月に個人面接を行い、卒園後の進路についての意向の確認を行っている。3月には幼稚園のプレ保育に参加したり、連携している保育園に職員が子どもと一緒に行き一日遊んでくる。保護者の了解を得た上で進学先、転園先に対して子どもの発育状況を書面で伝える「園児発育状況票」を訪問して手渡し、引継ぎを行っている。入所先に伝えられた子どもの情報により個別対応が適正に配慮され、卒園や新しい環境への不安が軽減されてスムーズな新生活へと移行できているとの保護者や入所先からの報告がある。		

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当	
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当	
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当	
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当	
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当	

サブカテゴリー3の講評	
<p>子どもの心身状況や生活状況は定期的に児童票等に記録している</p> <p>子ども一人ひとりの成長、発達の様子は入園時より定期的に児童票等に記録されている。子どもの日々の様子は園独自の個別保育計画・保育日誌に記録している。個別保育計画・保育日誌は月案、週案、日誌が併記され項目毎に記載して全て一目で分かるよう記録されている。前月末の子どもの様子と今月のねらい欄には①発育、健康②人間関係、環境、言語、表現③食事、排泄などがあり、次の欄は今週のねらい、配慮、評価がある。下の欄は月～金曜日に、家庭からの連絡と保育園での子どもの様子、家庭への連絡があり子どもの情報を記録している。</p> <p>理念を踏まえ全体的な計画に沿って指導計画を策定し必要な見直しをしている</p> <p>保育理念「子どもの主体的な発達要求に応答する環境を豊富に整え、自ら興味・関心を持って環境にかかわりチャレンジした充実感を味わわせ、発達年齢なりの心情、意欲、態度を養う」を踏まえ全体的な計画に沿って指導計画を策定している。毎月の保育指導検討会議で子どもの月齢や発達に合わせた課題、目標を確認し、状況変化のある場合にはその場で対応して個別指導計画を作成している。週案は週末に、月案は月末に、年間計画は期ごとに評価し見直しを行い、年度末3月に年間の振り返りを行っている。</p> <p>子どもの個別計画や情報を共有し職員間で連携した支援を行っている</p> <p>タブレットの記入による個別保育計画や保育日誌、連絡帳アプリ等で日々の子どもの姿、状況などの確認や把握がスムーズにできるようになり情報の共有が図られている。0～2歳児全員の個別計画は毎月の保育計画検討会議で話し合い、全職員が保育のねらいや配慮すべき事項を共通の視点で共有している。保育計画の目標は職員間だけでなく、毎月一人ひとりの保護者に伝えられ一緒に取り組み共有している。子ども一人ひとりの個別計画や情報は全職員が共有し、子どもたちに寄り添いながらより良いチーム保育で連携した支援が行なわれている。</p>	
サブカテゴリー5	
5	<p>プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重</p> <p style="text-align: right;">サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5</p>
<p>評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
<p>評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリー5の講評	
<p>情報管理に注意し個人情報の取り扱いや子どもの羞恥心に配慮している</p> <p>保育園での個人情報取り扱いマニュアルを定め、保育での具体的な取り決めを記している。個人情報の取り扱いについては入園説明会、両親面接時に保護者に説明し、写真の取り扱いについての誓約書を得ているが、個人情報を使用するための許可を得る同意書が整備されていない。保育園のみならず行機関などや病院等外部への、個人情報を使用するための許可の同意を得る。同意書の整備を望みたい。子どもの羞恥心についてはトイレや着替え、夏季の水遊びの際などに、外部から見えないように目かくしをしたり、場所を限定したり等の配慮を行っている。</p> <p>子どもを尊重した保育を基本とし子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮している</p> <p>一人ひとりの子どもの育ちを大切に保育の中で、子どもの人権の尊重について学びあい職員間で共有し実践している。丁寧な言葉遣いで保育をすることや名前を呼び捨てにしないなど、温かい言葉かけや会話などで子どもと接するよう配慮し、子どもを尊重した支援を行っている。絵本やおもちゃ、教具等は子ども自身が選び自分の思いを発揮できるよう見やすい目の高さ、手の届く範囲に設定している。保護者の意見や要望等をよく聞き、生活環境や意向を踏まえて対応し、個別の価値観や生活習慣に配慮している。</p> <p>虐待防止や育児困難家庭への支援に取り組んでいる</p> <p>虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて園内研修や外部研修で学びあったり、職員会議等で話し合い理解を深めている。虐待防止マニュアルには子どもの人権に配慮した質の高い保育をするための方針を示すと①保育者の配慮7項目②虐待、ネグレクトの予防と早期発見8項目が記載されている。日常保育の中で子どもの様子の変化や受け入れ時の視診、着替え時に子どもの身体状況や送迎時での保護者の状況や会話、子どもへの関わり等で不適切な育児の有無を確認している。問題が生じ支援が必要な場合には園長へ報告し行政機関に連絡、相談を行っている。</p>	

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-6の講評			
マニュアルや手引書で業務の共通理解を図っている 個人情報取り扱いマニュアル、虐待防止マニュアル、不審者対応マニュアル、保健衛生管理マニュアル、感染症及び食中毒発生時対応マニュアル、食物アレルギー対応マニュアル、散歩の安全配慮、水遊びの安全配慮など業務に必要なマニュアルや手引書を策定している。また、日常的な保育については区の保育の質ガイドラインを手引書としているが園として策定したマニュアルで手順を明確にしている。職員会議等で支援内容の検討が行われ、必要に応じてマニュアル等で確認し業務への共通理解を図っている。			
より良い保育を目指して業務内容の見直しを行っている マニュアルや手引書等は6月に全職員参加の研修で業務の振り返りを行い、確認、見直しを行っている。マニュアル等は定期的に読み合わせを行っている。特に課題になる事柄、「今年度は衛生、事故対応のケーススタディ」はロールプレイを用いて学習し、保育のスキルアップにつなげている。より良い保育を目指した各行事ごとに反省会を行い、次年度に向けて改善点を確認している。全体的な保育の振り返りと変更事項や日程調整等は年度末に行い、次年度の保育計画に反映し実践に取り組んでいる。			
個別面談やアンケートを通じて保護者の意向を確認し職員間で共有している 個別面談やアンケートを通じて保護者の意向を確認し職員間で共有している。すべての保育行事についてアンケートを行い保護者からの感想、意見、提案などを聞き取りブログに掲載している。また、次年度に活かす事項の項目を設定して改善に生かしている。後日、アンケートの結果と対応を報告している。個人面談を行い子どもの成長の様子を伝え子どもの課題を話し合い、課題によっては職員会議の議題として取り上げて話し合いを行っている。特に支援を必要とする子ども、困難を抱えている家庭に関しては職員間で共有しチーム保育で支援を行っている。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
		36 / 36	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
評点(○○○○○○)			
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○ 非該当
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている		○ 非該当
評価項目1の講評			
<p>子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境を把握し保育を行っている</p> <p>発達の過程や生活環境など子ども一人ひとりの全体的な姿は、個人面談記録や連絡帳など園と家庭の連携を密にしながら把握している。日々の様子を記録する日誌の記入は職員がパソコンに各自のパスワードで行い、情報を職員間で共有している。家庭への連絡欄に2歳児の個別日誌、保育園での子どもの様子「今日は馬車公園に行きました。皆でよーいどん！とかけっこの練習。名前を呼ばれるとハイ！と返事をして上手に走っていました」と公園での遊びの姿がエピソードと共に記録されている。発達の状態は定期的に児童票に記録し、職員間で共有している。</p> <p>子どもが主体的に遊び活動できる保育環境を工夫している</p> <p>子どもが自分の好きな遊びが選べるように絵本やおもちゃ等は目の高さ、手の届く範囲になるよう工夫し保育環境に配慮している。子どもの興味に応じた働きかけや遊具の交換を行い、課題に応じた保育室の環境整備に心を配り子どもに寄り添って対応し、子どもが主体的に周囲の人、もの、ことに興味や関心を持って活動できるように支援している。おもちゃ等の収納棚が保育室の仕切りになり、空間を広く自由に使用する工夫としている。床は緩衝用にマットが敷かれており安全の配慮がされている。マットは取り外し自由なビース仕様を使用している。</p> <p>子ども同士が個性を認め合い遊びあう関係作りに配慮している</p> <p>園の保育は異年齢保育を基本としており、日々の生活の中で自分より幼い子へのいたわりの気持ちやお世話をしたい気持ちが育まれ幼い子どもは上の子の真似をして遊ぶ姿が見られる。子どもたちは日々の活動の中で楽しい経験を通じ助け合ったり、思いやりして互いを認め合い仲間意識を育てあっている。配慮を必要とする子どもへの対応は月1回の保護者との話し合いを行い子どもに寄り添い個別に援助を行っている。成長の過程で生じるトラブル(けんか、かみつぎ等)には状況把握を丁寧に行い、双方の子どもを大切に受け止め対応している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当
評価項目2の講評		
<p>登園時には家庭での子どもの様子を保護者に確認している 登園時には必ず言葉をかけて保護者と会話を交わし、連絡帳アプリの記載内容の確認や視診を行い、家庭での子どもの様子を把握している。連絡帳アプリ導入で子どもの登園前に目を通して内容の確認をし声をかけやすくなっている。職員間の情報の共有は連絡帳アプリで行われている。前日の様子などから子どもの体調で散歩など戸外遊びを控えたり、配慮食に変更するなど必要な配慮を行い保育に反映し子どもの健康維持に努めている。保育園と家庭での子どもの様子を丁寧に伝え合い、より細やかな連携を図り個々の子どもに応じた保育を行っている。</p> <p>個々の発達段階に合わせ家庭と連携し基本的な生活習慣の習得を援助している 発達過程を踏まえて子どもの意欲や気持ちに添いながら、基本的な生活習慣の習得に向けて子どもの育ちを援助している。食事、排泄、着脱等の基本的な生活習慣の自立は個々の発達状態に合わせ、家庭での様子や保護者の意向に配慮した保育指導計画を作成し、その目標を保護者にも伝え園と家庭と連携しながら進めている。トイレトレーニングはトイレに興味を持ち便座に座ってみようとする、1歳後半からタイミングでトイレで排尿が出来た時に、「オシッコ出たね!」、「できたー!」などの声掛けをし一緒に喜び、意欲や自身が育つよう配慮している。</p> <p>個々の生活リズムに配慮し子どもの一日の様子を保護者に伝えている 子どもたちの生活リズムの中で遊び、食事、午睡、休息等に配慮を行っている。子ども一人ひとりの生活リズムや睡眠状況は朝の受け入れ時に把握し、寝不足や体調が良くない等に配慮が必要な場合には午前寝など、子どもに合わせた対応を行っている。午睡は夜の就寝時間が遅くならないよう配慮している。うつぶせ寝など睡眠時の見守りチェックは個別の午睡チェック表に記録している。お迎え時には保護者とのコミュニケーションを丁寧に言い、元気で過ごせた等の子どもの体調やうんとこしょー!と公園の雑草の根っこ抜きをしたなど子どもの姿を伝えている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもたちの自発性を尊重し主体的に遊び活動できる保育環境を整えている 子ども達が自発的に遊びたい意欲を培えるよう配慮した遊具や絵本を用意している。季節や成長に合わせ、興味・関心を持っているものの状況を見ながら、子どもの発達や興味に沿った遊びが出来るように、絵本は季節ごとに入れ替え、ままごとやブロックは月ごとに入れ替えている。手に取りやすい場所に様々な絵本やおもちゃを配置するなどの配慮を行い保育環境を整えている。子どもたちが好きなおもちゃなどで自分の遊びを自由に選択して遊び込めるよう絵本のコーナーやままごとのコーナーなどスペースの工夫と配慮を行っている。</p> <p>子どもたちが関わりあいながら生活や遊びが豊かに展開するよう配慮している 子どもと保育者が一緒になって遊ぶ中で遊びの楽しさを共感したり、おもちゃの取り合い等で互いの思いを伝えあう関わりを体験している。日々の保育や劇あそび、運動会などの体育行事の中で様々な表現を楽しみ生活や遊びを豊かに展開するよう配慮し努めている。劇あそびでは大きなかぶ、三匹の子ぶた、猫のお医者さんなどを行って楽しんでいる。また、月3回20分程度、英語で遊ぼうで踊りや歌、カードゲームに興味を持って参加したり、月2回30分程のリトミックを行ってリズムに合わせ身体を動かしたり、講師の先生との交流を楽しんでいる。</p> <p>子どもの心身の発達が促されるよう戸外、園外活動を行っている 保育計画の中で戸外・園外での活動は子どもたちの興味や関心を育てる機会として大切にしている。自然に触れる機会を多く取り入れて豊かな感性や健やかな心身の育ちに配慮している。職員たちが実際に歩いて目的の公園や途中の道筋の特徴や安全などをチェックしたマップを纏めた散歩ブックを作成している。これは保護者にも配布し大変喜ばれている。毎日の散歩をする中で子どもたちはカタツムリ、蝉、どんぐり、トンボなどと触れ合って季節の移り変わりや自然の不思議を体感している。興味や関心を持って戸外活動を楽しめるよう配慮している。</p>		
4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>子どもたちが興味を持って取り組み楽しむ行事を行っている 日常保育の中で子どもたちが興味を持って遊び、楽しんでいる事柄を行事として行っている。子どもたちだけで楽しむ季節の行事は七夕まつり、プール遊び、遠足、クリスマス会、節分、ひな祭りがある。七夕まつりは笹飾りを製作して祝い、夏の期間のプール遊びはビニールプールやタライで水あそびや沐浴を楽しんでいる。節分ではおに面の製作をして豆まきを楽しみ、ひな祭りではおひな様を製作して節句を祝い、特別献立を楽しんでいる。保護者が参加する行事は発表会(保育参観)、合同運動会、親子ふれあい遊び、卒園式、入園式などがある。</p> <p>子どもたちが行事の取り組みの中でやり遂げることの喜びを味わえるよう配慮している 保育の中で子どもたちの思いを十分くみ取り、子ども自身がやり遂げたことを喜び味わえるように配慮し工夫した行事を実施している。発表会では大きなかぶや三匹の子ぶたなどの劇遊びを、成長状況に合わせた配役をして、みんなで楽しく取り組み、できた！という達成感を喜び味わえるよう工夫し配慮している。運動会の種目は日頃子どもたちが興味を持っている遊び、かけっこやリズム体操などを組み合わせることで決定し、喜んで取り組めるように配慮したプログラムを作成している。</p> <p>保育行事を子どもの成長と友達との関わりを見る機会とし保護者の協力を得ている 保護者には年間の行計画予定表を周知している。行事の案内は園だよりや行事のお知らせなどで内容の詳細を伝えている。保育行事では子どもの成長と友達との関わりを見る機会とし、また、保護者の交流の場となるよう工夫している。合同運動会では園児26名に100名を超える家族の参加がある。園児たちのサンサン体操やかけっこなどにパパの競技大縄跳び、祖父母も参加の保護者借り物競争、兄弟の競技など来場者全員が参加できるプログラムを作成している。アンケートの感想に親子参加で子どもと一緒に頑張れた達成感もあり楽しかったとの声がある。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間の長い子どもが安心し、寛げる環境になるよう配慮をしている</p> <p>生活リズムの中で長時間保育の子どもがゆったり落ち着いて寛げる環境になるよう設定に配慮している。午前中は散歩など戸外活動で十分体を動かして過ごし、午後は室内遊びを中心に過ごしている。朝早く登園する子どもに対しては午前寝をしたり、遅くまで残る子どもにはおやつを量を増やしたりしている。個々の疲れや思いを受けとめ生活リズムの連続性、子どもへの対応に配慮している。保育室の環境についてゆったりスペースにはマットやクッションを置いたり、遊びのスペースは状態に応じた空間となるよう工夫し、安心して寛げるよう配慮し整えている。</p> <p>保育時間が長くなる中で子どもが楽しく過ごせるよう配慮している</p> <p>7:30~18:30の開園の中で10時間保育児は3分の1程度となっている。16:30~18:30の2園合同保育で子どもの数は5~6名位となる。子どもの数によって部屋や遊びを変えたり、短い散歩をしたりして遅番の子どもが最後まで保育園で好きな遊びが出来るよう工夫して、お迎えまで楽しく過ごせるよう配慮している。日常的に混ざり合って遊びあう異年齢保育を行っており、年齢に応じて用意されている絵本やおもちゃなどで一緒に遊び子ども同士で楽しんでいる。遊びの継続に配慮し、子どもの心に寄り添った援助を行っている。</p>		
6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>落ち着いた環境の中で食事を楽しめるよう配慮している</p> <p>広い保育室の中は食事のスペースと遊びのスペースとを分けている。子どもが落ち着いて食事を楽しむことができるように、調理室に近いコーナーを収納棚や柵で仕切り、ランチルームスペースを作り環境を整える工夫をしている。1歳児の子どもたちが友だちとテーブルを囲んで保育士の援助を受けつつ一緒に食事を楽しむ姿が見られた。食事時間では子どものペースを大切にまた、友だちとおしゃべりも大切にして楽しく食事が出来るよう配慮と援助を行っている。ひな祭りに特別献立が計画されているが、さらに他の行事食など、メニューの工夫を期待したい。</p> <p>献立は薄味を基本に旬の食材を味わい個別に合わせて提供している</p> <p>味覚を育てる乳幼児期の食事作りを意識して栄養のバランスを考えた旬の食材を取り入れた手作り給食を行っている。素材の味を生かして自然の出汁などで薄味を基本に季節に合わせた給食を行っている。調理は子どもたちが食べやすいように野菜など細かく刻み大きいままの時は柔らかく煮るなど工夫している。個別に合わせて離乳食やアレルギー除去・代替食の給食を提供している。アレルギー対応食は除去の食材チェック表や医師の指示書に従って提供し、誤食防止のためチェックを重ねている。壁にアレルギー食ありますの札をかけて注意を喚起している</p> <p>食に対する子どもたちの興味・関心を育てる取り組みをしている</p> <p>食育計画を作成し食に対する子どもたちの興味・関心を育てる取り組みをしている。食育計画は0~2歳児と3歳以上児に作成されている。0~2歳児の目指す子ども像は①体をいっぱい使った遊びをしてお腹がすくことを知る②いろんな食品をおいしく、よく噛んで食べる③楽しく食事ができる。であり、3歳以上児は①がなく③食事のマナーが理解できるになる。子どもたちは近所の農家から頂く季節の野菜に触れたり、屋食やおやつに出るソラマメや枝豆、トウモロコシなどの皮むきをして色々な食材の形や色、匂いなど実物を体験し、興味や関心を育てている。</p>		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
	●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>病気やけがの予防について日々の生活の中で伝えている 病気やけがの予防に向けた話しや行動は絵本や遊びの中で具体的に伝えている。散歩などの外出時、トイレの後、食事の前の手洗いやうがいなどを行っている。手洗い時一人では十分に出来ない子どもたちには、声かけやいっしょに洗うなどのサポートをしながら行っている。うがいは2歳児のみで0～1歳児は食事やおやつが終わりに、必ずお茶を飲んで口の中をきれいにし、歯磨きの代わりにしている。日々の生活の中で咳や鼻水などの話題を、絵本や遊びの中に取り入れて、子どもが病気のことに関心を持てるよう保育の工夫と配慮をしている。</p> <p>園医と連携し子どもたちの健康維持に努めている 毎日の子どもたちの状況は登園時の視診チェックにより健康状態を把握し記録している。嘱託医による健康診断は年2回実施している。検診の結果については児童票に記載し健康管理に留意している。生活の流れの中で子どもたちの様子は機嫌、食欲、顔色、体温、活動など健康状態に十分気をつけて早めの変化の発見に努めている。医療的ケアを必要とする子どもに対しての備えとして、近隣の医療機関と連携をしておいても対応できるように関係を保っている。入退所による環境の変化がある場合に入所児が不安なく落ち着いて過ごせるよう環境の配慮をしている。</p> <p>保護者に感染症やSIDS(乳幼児突然死症候群)について情報を伝え予防に努めている 入園前の健康診断と両親面接で子どもの健康状態を十分に把握し、母子手帳を確認している。面接時に乳幼児に多い感染症やSIDS(乳幼児突然死症候群)の情報や保育園で気をつけている事柄などを説明している。SIDS(乳幼児突然死症候群)の予防に関しては睡眠時チェックを行い、ベビーセンサーは8か月くらいまでつけている。感染症についての症状、潜伏期間、予防の仕方などの情報は、園だよりや保健だより等で提供している。感染症発生の早期発見、予防に努め蔓延しないよう、保護者の注意を喚起し、協力を依頼している。</p>			
8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
	●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
	●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
	●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>保護者には子育てや就労等個々の事情に配慮して支援を行っている 保護者個別の事情は個人面談、連絡帳や送迎時の日々の会話から把握し、職員は情報を共有し保護者に合わせた支援を行っている。子育てや就労の悩み、病気、離婚など保護者個別の事情を踏まえて状況に応じて、園長、担任等が面談し柔軟に対応し支援している。また、保護者からの相談が園長指名であり、その都度園長が対応している。日々の送迎時に交わす会話などのやり取りから、保護者の状況や子どもについて、具体的な様子を聞き、子どもが園生活を家庭との連続性をもって安心、安定して過ごせるよう配慮している。</p> <p>保護者会や行事を通じて保護者同士の交流や職員との交流を深めている 保護者同士の交流の機会として年1回のパパ会(パパだけの保護者会)、年2回のママ会(ママだけの保護者会)と園の行事で保護者参加の保育参観(発表会)、給食参観、合同運動会、親子ふれあい遊び、卒園式、入園式がある。参加した保護者同士は子どもの育ちの様子や園での様子、子育てなどについて、これらの行事を情報交換の場として交流を深めている。日々の送迎時の声掛けや連絡帳でのやり取りを通して信頼関係を大切にし、交流する機会や時間を多く持てるよう努めている。職員に気軽に相談できるよう保護者会などで丁寧な職員紹介を行っている。</p> <p>子どもの発達や育児などについて保護者との共通認識を得る取り組みを行っている 園では保護者への子育て支援が大切であると考え、子どもの発達や育児について入園前の両親面接で保護者の育児方針を確認しながら一緒に考えて、子育てをすることを基本としている。毎月の個別保育指導計画を職員全員で検討し、その中で家庭でも取り組んで欲しいことを連絡帳で伝えている。保育参観など行事参加の呼びかけは園だより、連絡帳アプリ、直接の声掛けなどを行っている。保護者の提案や意見等は日々の会話の中や各行事のアンケート実施の中で聞き取りをし、その結果を保護者に報告し、職員会議等で内容を検討し次年度の計画に反映している。</p>			

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
評価項目9の講評		
<p>地域資源を活用し多様な体験や交流ができる機会を持っている</p> <p>園の近くには広大な都立公園や特徴のある公園が、お散歩マップで示される散歩ルートに多くある。毎月訪問する高齢者福祉施設も近くにあり商店なども多く、地域の方々と関わりやすい環境にある。近隣の地域学習センターや図書館、児童館などの施設も数多く、来館している地域の方や館の職員との交流を体験する機会となっている。高齢者福祉施設からの声掛けで月1回の訪問をするようになり、手遊びや歌などを披露している。男児が車イスの老人の手を握って「ばいばい！またね！」としたことがきっかけとなり、毎回最後には握手会となっている。</p> <p>園の行事に地域の方の参加があり地域の行事に参加したり交流の機会がある</p> <p>園では毎年7月に行う避難訓練の際に、消防署員指導のもとに行う消火訓練に地域の方の参加を呼びかけ、一緒に実施している。消火器を実際に扱うことが出来るので、近隣の方々は喜んで参加している。体験できたことに感謝して毎回参加している方も多い。一方、親子ふれあい遊びの行事には、近隣の親子が参加して、一緒に遊びを楽しんでいる。連携している認可保育園の行事にも参加して、運動会や発表会などを見学している。近隣の保育園との交流では、大きい子どもたちと遊んだり、園にはない園庭遊具やおもちゃなどで遊べる機会となっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	リスクに優先順位をつけ、利用者のリスクに対応している	
内容①	園では、最も高いリスクは園児の死傷事故であると考えており、毎年職員研修で「保育の安全配慮」について学んでいる。この8年間で病院にかかったケガは、3件のみであった。園では、防災対策などにも力を入れて取り組んでおり、避難訓練（消火訓練）年12回、水害訓練年1回、不審者対策年1回、さらにAED・消火器取り扱い訓練の時は、近隣の方にも声をかけ、消火器の扱い方を伝えている。また地震や火災の際の対応や事業継続に向けてBCP（事業継続計画）を策定し、職員に周知している。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-1-4	職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる
タイトル②	ITCの導入で連絡帳・保育日誌などを電子入力にし、事務処理の軽減に取り組んでいる	
内容②	手書きであった連絡帳・保育日誌・保育計画をタブレット入力にして事務の省力化に取り組んでいる。連絡帳と個別保育日誌は重複する内容が多く、二度手間になると感じるがあった。また保育日誌の保管についてリーダー会で検討を重ねて、2018年の5月より、個別保育計画と個別保育日誌を一体化した書式（園のオリジナル）の使用を開始した。さらに、子どもや給食の写真をタブレットで撮影し、連絡帳に添付し保護者にも好評である。保育業界の「保育に役立つ記録の在り方」をテーマにした研修では、てのひら保育園の取り組みが高い評価を受けた。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者の子育て支援を保育園の責務と考え共育てを目指している	
内容③	園の運営方針に父親と母親の仕事と育児の継続を支援するがある。ママパパになったばかりの保護者にとって育児の不安や負担は大きいと思われ、入園前に行く両親面接では、保護者の育児方針を聞きながら保育園と一緒に子育てをする、共育ての提案をしている。子育ての学びと保護者の交流を目的として、ママ会、パパ会の保護者会を行っている。パパ会では講師による講演を聞き、DVDで園での子どもの様子を見る。パパ屋台で焼きそば等を作り、登園してきたママと子どもがパパの料理をクラスに分かれて食べ、親子、保護者同士の交流の輪が広がっている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	法人名称にもなっている「ライフ・ワーク・バランス」の理念の実現に向けた事業を展開し、着実に成果を上げ新たな保育園開設に繋げている
	内容	育児と仕事の両立が普通にでき、子供にしわ寄せがいかない社会になってほしい。「ライフ・ワーク・バランス」の実現に向け、現在、法人では小規模保育事業所2園を運営している。園では働きやすい環境づくりを進め、チームワークの良い明るい保育環境が醸成されている。一方、「保護者との共育」をモットーにパパ会・ママ会を開催し、情報を密に共有しながら、子ども一人ひとりに寄り添う質の高い保育に取り組み、保護者から高い満足度を得ている。来春には、保護者から要望の高かった卒園児を受け入れることの出来る認証保育園が開設される。
2	タイトル	理念「ワーク・ライフ・バランス」の実現に向けて職員が働きやすい職場づくりを進め、職員からも評価の声が寄せられている
	内容	園では職員が働き続けられる職場を目指して、有休の半分を時間休扱いにして休暇を取り易くしたり、各種会議を午後の時間帯に開催するなど、なるべく残業をしないように配慮している。看護師の資格を持つ理事長（園長兼務）は、毎月給与明細を渡す時に個々の職員と話し合い、勤務内容を確認し有休の取得を勧めたり、ストレスチェックの結果を聞き業務量の変更をしている。前年度には職員の事務量の軽減を目指し、ICTシステムを導入、手書きであった連絡帳・保育日誌の電子入力化に取り組み、休みが取りやすいなどの声が職員から聞かれた。
3	タイトル	3年間変わらない保育環境（異年齢保育）の中で、子どもたちは互いに刺激し合い学び合いながら園での生活を穏やかに楽しく過ごしている
	内容	異年齢保育を基本として行われ、日々の生活の中で子ども一人ひとりの発達や興味などに応じて働きかけをしている。子どもたちは自分より幼い子へのいたわりや気持ちやお世話をしたい気持ちの行動を見せている。幼い子どもは上の子の真似をして遊びあっている姿が見られ互いに刺激し合い育ち合っている。園はワンルームを収納棚と安全柵などで遊びに合わせた仕切りをして、安全な保育環境を整えている。0～2歳児の子どもたちはこの空間で一緒に遊び、生活している。3年間変わらない空間や職員のなかでストレスや不安のない楽しい生活を送っている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	キャリアパスに連動した給与体制の実現に向けて、同一の賃金体制を業務内容を勘案した賃金体制に移行することを期待したい
	内容	法人は、法人名称にもなっている「ワーク・ライフ・バランス」を基本にした事業運営に努めている。職員は「パート」、「短時間正社員」、「常勤職員」それぞれに移行できるようになっており、望めば働き続けられる職場づくりを行っている。給与表も職員間で話し合い作成し、同一の賃金体制となっている。一方、職員の中にはリーダーの仕事が好きな人、補助的な仕事を望む人がいる。今年度キャリアパスを導入したが、2020年4月には2園体から3園体制に充実する。この機会に業務内容を勘案した賃金体制への移行を検討している。実現を期待したい。
2	タイトル	2020年4月の認証保育所「てのひらこども園」開設に向けた新たな事業展開に向けて、人材構成の見直しに対応した取り組みを期待したい
	内容	2020年4月には新たに認証保育所が開設し法人の運営は三園体制になる。従来は、区立保育園での勤務経験者を中心にベテラン保育士を採用し運営してきたが、今後は、より大きな組織体制の下、職員体制も若手・中堅・ベテランのバランスの取れた職員構成が必要になる。今後とも安定した運営を継続していくためには、運営理念・保育方針の徹底した共通理解、それに基づく保育実践、保護者対応方法の共有が求められる。新任研修を含む研修の充実、業務の標準化（手引書等の周知徹底）、連絡事項・情報の共有の徹底など更なる取り組みを期待したい。
3	タイトル	園では、リスクマネジメントに力を入れて取り組んでいるが、さらにヒヤリハットを活用した取り組みを期待したい
	内容	園は、ケガ・発熱・感染症、食中毒発生時対応マニュアルの他、衛生管理マニュアルや事業継続計画（BCP）を作成するなど各種のリスク対応マニュアルを整備し、子どもの安全確保に取り組んでいる。園では最も高いリスクは園児の死傷事故であると認識し、毎年、全職員を対象に「保育の安全配慮」をテーマに研修を行っている。日常的には施設安全点検チェックリストに基づく点検確認を行う他、ヒヤリハットに取り組み改善に繋げている。今後、新採職員の採用が見込まれるおり、リスク要因の洗い出しに有効なヒヤリハットの更なる充実を期待したい